

本は最後まで読み切る

—本は5～6回繰り返し読む—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. (1) 学校での学力向上や入学試験合格のために、本を読むこと、「読書」は役に立つのかという議論がよくあります。つまり、「学校の成績」を上げるため、「希望校合格」のために役に立つから読書に励むようにとよくいわれていますが、果たしてそうなのか。
(2) 確かに、本をよく読む小学生・中学生・高校生・大学生は学校の成績もよく、入試にもどんどん合格します。
(3) ただ、それは、学校の成績をよくしたり、入試に合格するために本を読んだからではありません。
2. (1) 本をよく読むことで「読解力」が身に着いたからです。つまり、本をよく読むことにより、文章などを正確に、分析的・論理的に読む力、これを「読解力」といいますが、この「読解力」と同時に読書による思慮深さが身に着いた結果、学校の成績がグングン上昇し、難関大学や難関高校、難関私立中学校、難関中高一貫校の入試にも合格するのです。
(2) 本をよく読むことにより、本を読む楽しみを知り、本をよく読む習慣が身に着き、それが、学習習慣となり、学校の勉強や受験勉強のよい引き金、動機付けとなることが多いためと思われます。
(3) 本をよく読む習慣や新聞をよく読む習慣は、「学習習慣」と直結します。ですから、この CRT の「開倫塾の時間」でも新聞を毎日 30 分以上読み、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けよう、自分の好きな本を毎日 1 時間以上読もうと訴え続けているのです。
3. (1) では、本はどのように読んだらよいのでしょうか。私のおすすめは、これぞいう「本は最後まで読む」、これぞという「本は6回読む」の2つです。
(2) まずは、この本を読むと決めた「本は最後まで読む」ことです。
 - ① 小説などを読んでいると数多くの登場人物が出てきて、その関係が余り難しく途中で投げ出したくなることもあるかもしれませんね。
 - ② そんなときは、主人公や主な登場人物の名前が出てきたときには「えんぴつ」で四角で囲みながら読むことをおすすめします。
 - ③ 大切なことばや人物、地名などは、えんぴつで四角やマルで囲みながら読み進めると、意外とどんどん先へ先へと読み進むことができます。



- ④歴史、伝記小説やドキュメンタリー、いろいろな国や地方の歴史の本を読むときに西暦や日付が出てきたら、それをそのページの上のほうに書き写すと面白い。
- ⑤一人の作家や著者の本を読んで面白かったら、その人の他の代表作を読んでみるのもおすすめです。
- ⑥そろそろ学校や近くの公共図書館も平常通り利用できるようになってきましたので、大いに利用してください。(但し、図書館の本は公共物ですから、書き込みは絶対禁止です)

4. (1)最後に、本は何回読んだらよいか。

(2)内容のある本は、1～2回読んだくらいでは、十分に理解し、作者の深い考えを知り、自分の血や肉とすることはできないことが多いと思われます。

(3)時間をおいて6回ぐらいはじっくり読み直すことをおすすめします。

(4)皆様は、本はどのようにお読みになっていますか。

最後まで読んだ本は何ですか。5～6回読んだことのある本は何ですか。

自分の本の読み方をライフスタイルとして、一度じっくりお考えになることをおすすめします。その中に、書店の利用の仕方、図書館の利用の仕方、読書スペースをどこにするかなども含めてお考えください。

以上

2020年6月26日(金)

16:00～16:15

CRTスタジオで収録

